

(様式3)

自己評価結果票 (2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念を作っている段階である。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	全職員の意見を聞きながら理念を作成している段階である。現在はさくら野里10カ条を作成しており、全職員が携帯できるよう配布している。朝礼時には復唱し実践するよう努めている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	理念を作っている段階である。	完成したら家族や地域の方にも理念を理解してもらえるよう取り組んでいきたい。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	月1回の喫茶や敬老会などに、地域の方々にも呼びかけている。また、夏祭りや敬老会等の行事の際には、ポスターを掲示して参加して頂けるよう努めている。	引き続き、行事の際には地域の方へ呼びかけ、気軽に立ち寄れるような関係を築きたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	盆踊りに行ったり作品展に出品するなど地域の行事に参加し、地元の方々との交流に努めている。	引き続き、地域の行事などへ参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない。	地域の行事などに参加し、交流を深め地域の高齢者へ貢献できることはないか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を真摯に受け止め改善に取り組んでいる。	
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員・自治会長・家族にサービスの状況を報告し意見を求めている。	今後も意見を求め、サービスの向上に努めていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	姫路市は運営推進会議には参加されていない。必要時は姫路市介護保険課へ連絡・報告・相談している。	
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施できていない。	権利擁護に関する制度の理解を深め、必要な人には活用できるように努めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議で法について学習し、不適切な言葉かけがないかなど全職員で注意を払い虐待防止に努めている。	日常的に気をつけているが、利用者が危険な状況になった時とっさに強く制止するといった事がある。今後も自らの言動を振り返り、学習していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、契約書・重要事項説明書・運営規定を用いて細かく説明し理解・納得が図れるようにしている。解約の際も疑問点を尋ね十分な説明を行っている。</p>	<p>十分な説明を行うことで、利用者・家族の不安や不安や疑問が残らないように努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>さくら野里に苦情窓口を設け、発生すれば記録に残し改善に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>変わったことがあれば随時連絡し、面会時には近況を伝えている。また3か月に1回手紙を送り暮らしぶりや健康状態などを報告している。金銭管理は毎月、職員の異動等は家族会で報告している。</p>	<p>入居者の様子をわかりやすく、しっかりと家族へ伝えていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や要望などは窓口を設け記録に残し改善に向けて努力している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回は常勤会議とフロア会議を行い、意見や提案を聞き、反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間について職員間で検討し、必要な時間帯に職員を確保できるように努めている。</p>	<p>必要時には、見直しを行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない場合以外の異動は極力せず、利用者との信頼関係を築けるように努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にもできる限り参加し、また施設内での研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を深めるべく、地域で行われる懇談会などにも積極的に参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人的な悩みについては個別に相談に応じ、助言やアドバイスをしている。また、フロア会議で業務上のストレスなどについて話あい、職員のストレスを軽減するように努めている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から直接話を聴き、困っていることの解決、不安なことの解消、求めていることの実現に向け、努力している。また、入居に至るまでに今までの状況(バックグラウンド・発症経過シート)を家族に記入して頂き、利用者の現状を把握している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居までに今までの状況(バックグラウンド・発症経過シート・グループホームに期待すること)を家族に記入して頂き、入居後も利用者の状況をこまめに報告し、その都度家族から話を聴くようにし、思いに添えるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じて、他の施設の紹介などを行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>居室にはこれまで使っていた家具や寝具などを置き、少しでもこれまでの環境に近づけるように工夫している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の話をよく聴き気持ちにより添える様に努めている。また、料理や伝統行事など利用者から色々なことを教わっている。</p>	<p>利用者と共に過ごす中で、更なる信頼関係構築に努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者に変化があれば家族に報告し、相談しながら介護の方向性を一緒に考えている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に用紙に記入して頂き、家族構成や関係などを把握し、入居中もより良い関係が築いていけるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り関係が途切れないように支援している。面会の希望があれば家族の了解を得て、して頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の相性や性格を把握し、利用者の負担にならない程度に関わり合い、支え合えるように支援している。		利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は実施していないが、退去後に他の施設に面会に行ったり、亡くなられた方の葬儀に出席したりはしている。		継続的な関わりを必要とされる利用者や家族があれば、関係を断ち切らないつきあいを大切にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で一人ひとりの話をよく聴き、希望の把握に努めている。またケアプラン作成時には意向を伺っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者や家族から話を聞いたり、入居に至るまでに記入して頂いた生活歴などを参考にしたりして、把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日ケース記録に細かく記入し、現状の把握に努めている。毎月開催するサービス担当者会議やフロア会議でも職員で意見を出し合い、総合的に把握できるように努めている。</p>	<p>日々の状態把握に努め、変化を見逃さないようにしたい。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意向を大切に、チーム全体の意見を反映して介護計画を作成している。</p>	<p>専門職の意見やアイデアも交えた介護計画の作成に取り組んでいきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間に応じて見直しを行い、利用者の状態変化が生じた時は都度見直しを行い新たな介護計画を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を細かく記入し、これをもとに毎月サービス担当者会議やフロア会議を開催し、職員の意見を出し合っている。これらを活かして介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの生活が困難になった方には、特養への入居が出来るように支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方から、地域行事を教えて頂き昨年11月には地域の文化展に入居者様の作品を展示して頂く事が出来た。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の意向や必要性に応じて、他のケアマネジャーや事業所と話し合いの場を持っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施できていない。		利用者・家族より希望があれば協働していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望を大切に、かかりつけ医にかかって頂いている。提携病院外へ家族と受診する場合も日々の状況等手紙にし、主治医に説明してもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携病院に専門医はいない。		必要に応じて、紹介状を書いて頂き受診を支援している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤・非常勤の看護師が1名ずつ在籍しており、利用者の日常の健康管理について、すぐ相談する事ができる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携している病院と情報交換を行い、状態が安定すれば早期に退院できるよう努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			早い段階より、職員・かかりつけ医・家族と話し合い今後の方針を決める段取りをしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は今後生活していく上で、可能なこと・不可能なことの説明を行っている。		家族の意向をふまえ、かかりつけ医と職員、家族の連携を図り、今後のケアについて検討する準備を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報交換を行い、ケアについて十分な把握がお互いできるようにしている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレも共同ではなく、個々に設置されておりプライバシーに配慮されている。また一人ひとりの認知度・理解力に適応した声掛け・対応を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>「～しましょうか」「～どうですか」と依頼形で声かけを行い、可能な限り自己決定をして頂く様にしている。また自らの発語が乏しい利用者には表情やしぐさで希望が表わせるよう働きかけている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人が「眠たいから寝たい」と希望され、その通りにして頂くと昼夜逆転になり、夜間離床されることが増えてきた。その為本人が意欲的に参加される手作業等を依頼し、その方のペースを作るよう支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人・家族の意向を確認し、理容・美容院へ行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材洗いや下拵え、切る作業等その方に応じた内容の参加を促し、職員と一緒に出来るようにしている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特別にこれが好きと好む利用者には家族が面会時に持参されたり、食材買出しの際に利用者が選んで購入している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利尿剤を服用している方や、排尿間隔が極端に長い利用者もおられ、一人ひとりパターンが異なる為、個別に応じた支援を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水・日以外の曜日の中で利用者・家族の意向を把握し、曜日や希望時間を考慮し入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠を得る為、日中の活性化を図ったり、巡視時に室温の管理を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手作業が好きな方、歌を唄うのが好きな方等様々なので、一人ひとり違った声掛けを行い、自ら行動を起こされない方にも気晴らしして頂けるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	同行して頂き食材購入時に本人がご自身の好物を選ばれた場合は支払いを本人にして頂いている。また管理が困難な方も立て替え金を利用し職員と共に買出しに行き好みの物の購入が可能である。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			必ずしも希望に添えず、例えば買物の希望があっても、入浴・食材買出し、フロア見守りで3名の職員が業務に入ると、食材以外の個別の買物の希望に添うことができない。入浴・行事がない時に対応していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月ごとのバスハイク等の行事で季節を感じる事ができる場所へ行くようにしている。		食材買出し、又は薬局等の買い物以外近所の喫茶店へ行くことが多く、個別での希望の場所へ行くことができていない状況にある。食材2日分購入する日を作り、個別で外出できる日を作りたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある利用者はその家族に対応の仕方を尋ね、個別対応をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会できるようにしている。面会者が来られたら、食堂や居室など思い思いに過ごされ、食事も希望時提供できるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解し、やむを得ない場合は家族の同意を得て行うが、行わないよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			日中玄関は常に施錠しており、開錠することができない状況にある。利用者の中には時折・強い帰宅願望があり、玄関を開けようとする行為が何度もみられることがある。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員全員が常に利用者のプライバシーに配慮し、所在確認を行っている。		安全に配慮しているが、一人の利用者に対し24時間常時の見守りが難しい現状もある。安全の確保に努めたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い針やはさみ等個々の能力に応じて所持している。必要に応じてチェック表に記入することもある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	臥床時のセンサーマット設置、誤嚥のリスクが高い利用者に極刻みの食事を提供する等、一人ひとりに応じた取り組みをしている。		しかし必ずしも抜けがないわけではなく、服薬済みの内服薬が床に落ちている事があり、更に気今後ないように気をつけていかなければならない。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度心肺蘇生や急変時の対応について研修している。		途中から勤務した職員もいる為、定期的に研修を行い全職員が把握できるようにしなければならない。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練は定期的に行い、利用者を実際に誘導し避難できるように学んでいる。		運営推進会議で地域の方に協力をお願いするも、具体的な内容まで発展していないので、避難訓練に参加して頂けるよう働きかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>全ての職員が入居者の内服薬の把握を行う必要がある。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>ラジオ体操以外で意識的に体を動かして頂く機会が少ない為、ボール遊びや歩行等自ら行動されない方に促していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>見守りを行う方はいるが、職員が介助して歯磨きを行うことは少なく、磨き残し等みられる可能性がある為チェックしていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを常に確認できるようにしている。昨年は全職員対象で感染症に対する試験を行い、全職員の把握に努めた。		インフルエンザ・ノロウイルスの季節には外部から菌を持ち込まないように面会者・職員とも、うがい・手洗いを徹底を呼びかけ実施している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は一度洗剤で洗った後に食洗機にかけ、まな板や水きりかごは週に1度塩素消毒をしている。またほぼ毎日食材買出しに行っており、新鮮なものや安全なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節に合った小物や花を飾り、安心感が得られるように努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの音楽を流したり、居室前や食堂に季節を感じる事が出来るものを展示している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれる場所はないが、廊下の喫煙コーナー前のベンチなどは一人になることができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や布団を持ち込まれており、住み慣れた安心感を得られるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時換気を行い、室温計を各居室に設置し温度・湿度のチェックを行っている。また冬場は食堂には加湿器を設置し、居室にも濡れタオルを干し湿度の管理にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置しており、歩行訓練時には使用することができる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて可能なこと、不可能なことを見極めできないことだけ介助するようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜を植え、利用者と共に収穫できるようにしている。またベランダは一緒に花を植え水やり等利用者がすすんでして下さるようになっていく。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (2F)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・看護師が職員として勤務しており、利用者の体調管理などを介護職員と連携して行っている。・洗濯物たたみや日めくりカレンダー変え、掃除など、利用者が自らできる事を見つけて、すすんで取り組まれている。